

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「地域の人に支えられ、歩いて行こうゆうゆうで」という言葉を職員間で考え、理念として玄関に掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念にもとづいた日々の関わりの中で、入居者との間に信頼関係ができつつあるのを、職員は感じながら取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は手書きによりホームの玄関に掲げて目につくようにしているが、広報誌・ホームページの掲載については十分でない。</p>	<p>広報誌については、次号より掲載予定。ホームページには、今後載せていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域の方が畑の世話や椎茸栽培などで関わってくださっている。また、併設のデイサービスの利用者の訪問や民生委員、敬老会などに携わる方々の訪問があり職員も日常の会話ができるようになっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>職員は地区の清掃奉仕作業に年2回参加している。他併設の特養職員と共に、町主催の夏祭りに出店し、地域の方々と交流をする機会をもっている。また、文化祭に入居者の作品を出品し、毎年見学に行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>トライアルウィークで中学生の受け入れのほか、地域の民生委員や婦人会などの見学希望には応じているが、高齢者の暮らしに役立つ事については、まだ取り組めていない。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム会議時に、職員全員に説明し、理解を深め、検討している。引継ぎについて改善を行なっている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>H19年10月、H20年2月に実施、地域民生委員、ご家族、入居者、行政を交え報告、意見交換を行なった。ご家族の要望には、ホーム職員で改善している。参加家族の中には、家族同士の意見交換ができて良かったと、喜んでおられた。</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>県の通達等は町より配布され、参考にしている。町担当者に質問など積極的に行い、アドバイスをもらっている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員研修において学んでいる。現在、該当者はいないが、理解を深め、新しい職員にも理解できるように冊子を置いている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員研修及び接遇研修において学び、職員の資質向上に努めている。また、虐待防止マニュアルを備えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入・退居時に、本人、家族への説明を行い、理解・納得を得るとともに、相談などにはアドバイスを行なっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>苦情受付担当者を契約書及び重要書類に明示し、苦情報告書で解決に向け取り組んでいる。職員は、日常生活の中で入居者が意見や苦情を話せるよう接し、引継ぎ帳にて周知のものとし、必要時には会議などで話し合うようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月一回、入居者の心身の状態及び生活の様子などを家族に報告書にて送付する他、家族の訪問時や健康状態に異変がみられた時に電話などで報告、相談を行なっている。</p> <p>・ 項目と同様である。また、運営推進会議や、家族会の集まりの際に意見や苦情・要望を出して頂くよう時間を設けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の処遇会議や、管理者による個人面接、運営者へ提出の作文などで意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族が付き添えない場合の病院受診や行事に合わせた勤務体制、また、入居者の要望に応じた外出などに合わせ、職員の勤務時間を調整している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新職員採用時、2週間程度リーダー職員と共に勤務に就き、入居者の理解やコミュニケーションが図れるよう努めている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の法人内での職員研修、また、外部での新人研修や認知症実践研修に職員の経験年数に応じて参加できるようにしている。また、職員は地域のケアステーション主催の勉強会に自主的に参加している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内の3グループホームで、2ヶ月に1回グループホーム連絡会を開き、情報交換、意見交換を行なっている。</p>	<p>グループホーム連絡会にどの職員も参加できるようにし、勉強会・意見交換ができるよう取り組んでいきたい。また、入居者も含め気軽に相互訪問できるよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>慰安旅行、歓送迎会、新年会、忘年会、運営者を囲んでの食事会など、行なっている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年度初めの目標作文、及び管理者による個人面接を行い、職員一人ひとりが自身の目標を持って業務にあたるようにしている。また、人事考課を導入、職員に対しても自己評価を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメントシートにもとづき、事前面接を行っているが、その時だけでは本人が求めている事を聴きだす事は難しくこちらからの訪問、またホームへの訪問の機会を作り、思いを受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接や訪問にて、家族からの相談や質問などを聴き本人の思いとは別の家族の思いを受け止めるよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>併設特養利用案内、ケアマネジャー・行政を含め利用支援を願うようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームに訪問する機会を設け、他の入居者に紹介し、共通の話題などでホームの雰囲気に馴染めるようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に暮らす年を重ねるごとに、日々の生活の中で経験者としての知恵などを聴かせていただきながら、学んだり、支えあう関係ができています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	入居者の状態変化について、家族とホームとが解決に向けて話し合い、対応していけるように協力があるが、ホームに任せている家族もあり、できるだけ状況を連絡している。		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの行事や、ご本人の誕生会には家族が参加できる機会を作り、一緒に過ごせるよう努めている。また、希望により、外出や外泊などの支援を行ない良好な家族関係が継続できるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの訪問時には、ゆっくり一緒に過ごしていただけるよう、配慮している。また、馴染みの方からの電話や便りなども、支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共に暮らす年を重ね、仲の良い関係ができていく。新しい入居者には、職員が間に入り関わりが持てるように努めている。また、身体的状況から仲間に入りにくい方に関しても職員が状況を説明し、理解していただくように努め、入居者の中には気遣いをみせる方もある。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当ホームより、併設の特養に移られた方については、時々様子を伺いに行っている。また、退居後不幸にして亡くなられた元入居者の通夜・告別式には可能な職員は、出席している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話や関わりの中で入居者の希望や意向を聞いている。自ら表わせない方については、家族に聞きながら、安全・安楽を第一に考え、本人本位に検討している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時のアセスメントにて本人及び家族の訪問時に聞き把握している。また、日常の会話の中で得た生活歴や生活環境その他の情報は、ケアカンファレンス時に情報交換を行なっている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日常生活動作記録及び引継ぎ帳により、職員全員が入居者の状態を把握するように努めている。</p>	<p>新職員が加わった為、再度入居者個々のできる事できない事の見極めを職員全員で検討したい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成について、本人及び家族の希望や意見を聞き、取り入れている。また、主治医のアドバイスや、ケアカンファレンスにおいての職員の意見も反映している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎に見直しを行い、入居者の身体状況が変化した場合は、新たに計画を作成するようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者の個人記録、及びケース記録を作成し、引継ぎ帳に入居者についての伝達事項を記入し、情報の共有に努めている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設特養への行事参加などで交流がある。また、家族の希望で入居者と共に居室に宿泊する事は可能である。</p>		
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習字教室、朗読ボランティア、外出ボランティアなどの協力の他、民生委員の訪問がある。 ・町の文化展への入居者の作品出品。 ・消防署の指導により消化訓練(年2回)など。 		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>神河町運営推進会議、グループホーム連絡会などで、他事業所、行政などのサービスを把握し、交流を深めている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現段階では、該当者がいないため、運営推進会議実施により、相談等の指導を受け入れられる体制は確保されている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医を確認し、受診を継続しているが、緊急時はご本人家族の同意を得て、ホームの協力医院に受診していただいている。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関としての病院があり、入居者の中には、認知症の症状の相談に応じてもらっている。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>併設施設の看護師に緊急時の対応や処置の仕方、日常の健康管理についてアドバイスをもらっている。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者が入院した場合、面会などで常に病院での状態を把握し、必要時には病院の関係者と話し合い退院に備え支援している。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の中には、高齢の為、終末期のあり方について本人や、家族から意向を聞いている方もあり、職員間で確認し合っている。</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在は該当者はいないが、重度者に対して医療の必要性が発生した場合は、家族と共に支援していきたい。</p>	<p>重度者に対して今後の変化に備え、全職員で話し合う機会を持ちたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現在、1入居者が検討中であり、家族の意向を聴きながらいつでも情報提供できるようにしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者個々の身体能力に応じた援助を行いながら、プライバシー保護には配慮している。個人記録は外部の人や入居者の目に触れないように管理している。職員は採用時に、守秘義務についての誓約書を提出している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日頃の会話の中で、入居者の思いや希望が引き出せるよう努めているが、入居者の中には認知症が進行したために希望に添える事が少なくなり、身体を安楽に保つ事に重きをおいている方もある。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の入居者の好みや趣味を把握し希望に添うよう努めている。自宅付近までのドライブや、外出の希望にもできるだけ添うようにしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の中には、家族が面会時にカットされている方がいるが、理・美容については、併設施設に週1回来荘する美容サービスで満足しておられる。同窓会に出席される入居者に薄化粧をし、おしゃれをして楽しい気持ちになっていただけるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節感を感じていただけるよう、蓬を摘んでよもぎ餅作り、竹を流れるそうめん流し、畑の野菜で漬物作りなど、喜んでいただいている。入居者の中には、野菜の皮むき野菜切り、食器洗いなど進んで行い役割ができています。畑作りも手作りの野菜を食卓に載せたいとの思いから行なっている。</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>午前と午後のお茶の時間には、数種類の中から好きな飲み物を飲めるようにし、その他の時間にも希望があれば飲んで頂けるよう対応している。おやつは午後に出しているが、家族からの物は居室で自由に楽しめるようにしている。祭りなどの際に、希望があればお酒も楽しめる。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の身体状況や排泄パターンを把握し、トイレ誘導に努めている。入居者の中には、身体機能の低下により、トイレに行くまでに失禁に至る事もあるが、温かいタオルで清拭し清潔を保つようにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日、午後2時から4時半頃までが入浴時間となっているのが現状である。入居者は大体一日おきに入浴されている。入浴できなくても希望により、足湯ができるようにしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>気持ちよく眠れるように室温や寝具の調節に努め照明に配慮している。寒い時期は、コタツ、電気毛布など、寝心地良いうように希望に応じている。介助の必要な方には、特に気を配っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の中には、炊事や洗濯・掃除の手伝いを積極的に行われている。また、会話の中で食に関する希望がよく聞かれ、数人ずつ外食支援を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者自身でお金を管理しておられる方もありますが、外出時は、家族の希望もあり、ホーム立替金にて買物していただき、利用料として請求しているのが、大半である。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>1F・2F合同で外気浴やラジオ体操を行なうなど交流を図ったり、気晴らしに散歩するなど支援を行なっている。</p>	
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>外出行事では、ホーム皆で行く初詣や花見、希望者で行く買い物や外食などがある他、地域の施設で昔読まれた絵本を手にとられたり、子供達と交流することができた。</p>	
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や親戚、知人などへの電話や便りのやり取りを支援しているが、年賀状などをやり取りする入居者は少なくなっている。</p>	
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>夜9時頃までは訪問できるようにしている。入居者の居室のほか、畳スペースで昼食を共にされたり地域の知り合いの方が訪ねて来られ、お茶を飲みながら歓談されている。</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>宝寿会全体で身体拘束をしない方針である。職員研修会において話し合い、日々のケアに活かしている。危険と思われる時、やむ終えず拘束的な言葉かけにならないように、職員同士で気をつけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室やリビングの掃き出し窓の鍵は開放し自由に出入りできるようにし、夜勤者によって安全のため施錠チェックしている。玄関は、安全のため中から外へは、暗証番号にて出られるようにしているのが現状である。</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>常に入居者の所在は、職員だれもが居場所の確認、把握をし、居室で休まれている場合でも、訪室し様子を伺っている。夜間も巡回にて様子確認している。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者の中には用途に合わせて小さなはさみ、爪切り、針箱を持っておられ職員は把握している。入居者によっては危険が伴うためホームで保管している。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>法人内の研修に参加し職員間で話し合っている。事故が起こった場合は、事故報告書にて報告し、職員間で対応について話し合っている。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>職員研修で、応急処置や心配蘇生法の訓練をおこなっている。数人の職員が消防署にて、普通救命講習1を修了している。</p>	
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、法人内で消防訓練、避難訓練を実施している。また、本年4月より、毎月防災設備の点検を職員で行なっている。運営推進会議で地域の方に協力をお願いしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎月の家族への報告で普段の行動を知らせ、家人訪問時などに日頃の様子を話す中で起こり得るリスクについても説明し、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日勤から夜勤へ、明勤から日勤へと引継ぎを口頭及び引継ぎ帳で行い、確認印にて情報を共有している。毎日、定期のバイタルチェックを行い、顔色や食事摂取量にも気をつけている。身体の異変に気づいた時は他の職員と一緒に確認し、対応を速やかに行なうよう努めている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個人ファイルに薬の説明書を添付しており、職員は理解している。個々の身体状況に応じ、袋の名前を確認し、誤薬のないよう服薬支援を行なっている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食事で野菜を多く取り入れたり、便秘気味の入居者にはヨーグルトなど取り入れたり、毎朝のラジオ体操や軽い掃除など働きかけている。また、下肢筋力低下予防のためのエクササイズマシンも役立っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、口腔ケアの声かけをし、個々に居室で義歯洗浄されている。自分でできない方については、介助している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時に肉と魚のバランスを考え野菜を出るだけ取り入れている。食べる量については、食事チェック表や毎月の体重なども参考にしている。水分については、一日の水分摂取量を記録し参考にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、活用している。日常的には、1行為1手洗いの励行、使い捨てペーパータオル、使い捨て手袋の活用、手すり・ドアの引き手・トイレ便座の消毒などを行なっている。 インフルエンザ予防接種の実施支援を行なっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は、1日おきに賞味期限を確認し購入 ・食器、調理用具は乾燥機にて乾燥。 ・まな板、布巾はハイター消毒及び熱湯消毒 ・カウンターはアルコール消毒。 ・冷蔵庫内は、週1回程度整理消毒している ・食中毒対策マニュアルを設置している 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横の花壇やプランターに季節の花を植え、明るく親しみを感じられるよう工夫している。 玄関は安全性を重視し手すり、スロープを設置した作りとなっている。 ホームへの案内板については、まだ設置していない。		ホームへの案内板を設置するよう、検討、働きかけていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは適度に光が入り明るく、キッチンでの様子、玄関の出入りがわかる作りになっている。季節の花、壁の装飾など、季節感を感じられるよう工夫している。窓から観える、木々の移り変わりや鳥のなき声、鹿が餌を食べる様子もそのひとつである。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みスペースに掘りコタツ、ソファ、椅子とテーブルのスペースなど、思い思いの場所で過ごせるようにしている。テラスにベンチを設置し、外気浴を楽しむ事もできる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域の方の協力により、季節の野菜が畑で育ち、それが話題になる事で生活にはりができている。
畑仕事ができる方は少ないが、畑で採れた野菜が食卓にのることの喜びを味わっていただいている。